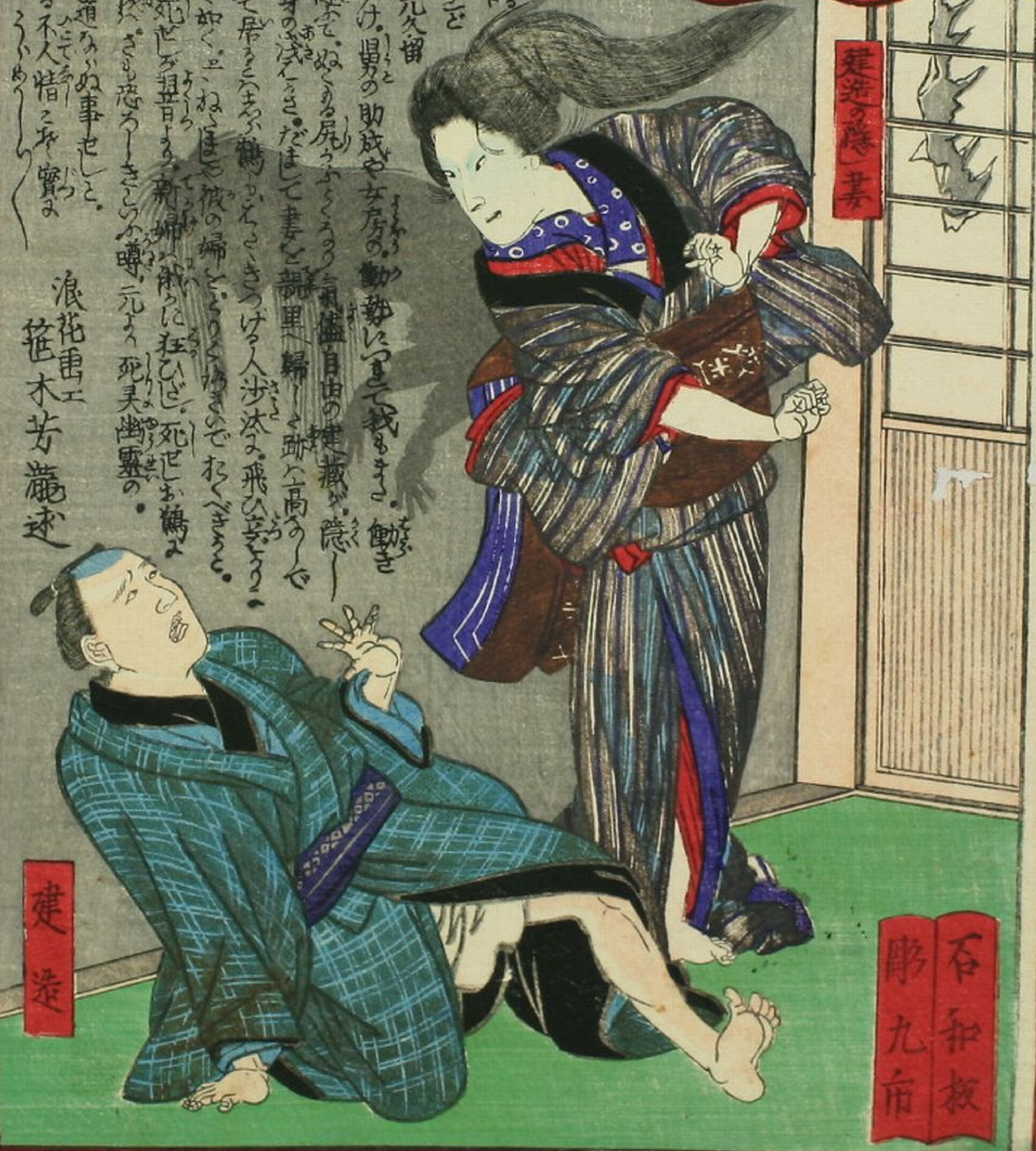
明治八歳
大阪錦画新聞
第十七号

明治八年第三月廿日頃の事なりしが長崎縣下第一大區新大工町の建蔵といへるものハ江戸ゟ地金賣買を。渡世となせど金貸なし。極貧窮なく暮せしが。元久留米藩某の。娘お鶴といへるをもらひうけ。男の助蔵や女房の。勤勢にいつまで我もさき。働き出して追々と。繁昌なするに随ふて。ぬくなる懐ふくらうの自儘自由の建蔵が。隠し婦とよの人逢ひ。深くなる身の浅ましさ。だまして妻を離縁し跡へ高かうで美顔新婦とむつまじく。添ふて居ることへまふか鶴ハおそろしきをつけ人沙汰に。飛ひ姿うろうけ来り。様子を見まへ聞く如く。ゑねるほど彼の婦とやうりく娘ぎてでれくべきうと。阿片煙草を十分に呑んで死せしが。跡にて新婦が俄かに狂ひ出し死せしお鶴よ似たる聲で。うらむ罵る有様ハさも恐ろしきうから噂。元より死夫幽靈の。有るべき筈のなけれども。コハ道ならぬ事せしと。我と發せる神經病にかかる不人情の報ひ實よ
うらめし

浪花画工
笹木芳瀧述



石和板
彫九市